

人物のようすや気もちに気をつけて読もう

「名前を見てちょうだい」 あまん きみこ作

めあて

えっちゃんが大男に立ちむかう場めん（五の場めん後はん）の音読のくふうを考えよう。

○きつね・牛 ↓ 帰った

○えっちゃん ↓ 帰らなかった

読み

- ・きりり読み
- ・いかり読み
- ・かえせ読み

「あたしは帰らないわ。だって…」

「食べるなら食べなさい。あたし…」

大男を見上げて
えっちゃんの
挿絵

あたしの ぼうしを かえしなさい。

- ・せっかくお母さんにもらったぼうしをなくしてたまるもんですか。
- ・お母さんにもらったぼうしをとりかえすまでここにいますよ。
- ・なんであたしのぼうしを食べるのよ。
- ・早くかえさないともおこるわよ。
- ・こわいけど、ぼうしはぜったいにとりかえすよ。

大男の顔の挿絵のコピー

えっちゃんが差し出して挿絵のコピー

しぼんだ大男の挿絵

【8 / 15 時間目 指導略案】 使用するワークシート⑧
活動のねらい

五の場面後半の会話文の音読の工夫を話し合うことで、えっちゃんの様子や気持ちを想像することができるようにする。

1 本時のめあてを確認する。

○ 前時の場面では、きつねと牛が大男に怯えて帰ってしまったことを想起させ、えっちゃんの行動と比べさせてから、本時のめあてにつなげる。

2 えっちゃんが大男に立ち向かう場面（五の場面後半）を音読し、音読の工夫について自分で考える。

○ 音読の工夫を「く読み」としてワークシートに書かせる。その根拠となる言葉や文にサイドラインを引かせ、そこから分かる様子や気持ちを書き込ませる。
【発問】「あたしは帰らないわ。だって…」「食べるなら食べなさい。あたし…」はどのように読んだらよいでしょう。

3 音読の工夫について話し合う。

○ まず、ペアで音読の工夫やその理由を交流させる。理由は、叙述を基にして述べることができるよう、サイドラインや書き込んだ内容を参考にさせる。

○ 次に、学級全体で音読の工夫やその理由を交流させる。

※ えっちゃんは大男のことを「怖い」のか「怖くない」のか問いかけることで、母親や帽子に対してのえっちゃんの強い思いを感じ取らせてもよいでしょう。

4 話し合ったことを基に、えっちゃんの気持ちを想像する。

○ ワークシートの吹き出しに、「あたしのぼうしをかえしなさい。」に続くえっちゃんの言葉を書かせる。

評価 大男を前にしたえっちゃんの気持ちを想像して、吹き出しに書いていく。
(イ1)

5 大男に勇敢に立ち向かうえっちゃんの気持ちを押さえる。

- 本時を振り返り、次時の学習内容を知る。
- 板書を参考にして場面全体を音読させ、ワークシートで自己評価をさせる。
- 次時は、六の場面を学習することを知らせる。